

# サルコイドーシス診療の手引き2016

## 序文

サルコイドーシスは全身性の肉芽腫性疾患であり、ほぼ全ての臓器・組織で病巣を形成するため多くの科の対象となる。病変は、肺、リンパ節、眼、皮膚に多く認められるが、心臓、神経、筋、骨、消化管、外分泌腺、腹腔内臓器、耳鼻咽喉科領域など多くの臓器に及ぶ。さらに、他疾患との鑑別が困難な慢性疼痛・慢性疲労などの臓器非特異的な全身症状が加わることもあり、その臨床像は極めて「多彩」である。また、各々の病変は短期間で自然に改善するものから、慢性化するもの、悪化して十分な治療を必要とするもの、さらに治療に抵抗して難治化するものまであり、その臨床経過は極めて「多様」である。治療薬は副腎皮質ステロイドホルモン薬が主体となり免疫抑制薬の使用が必要なこともあるものの、それらを開始するタイミング、量、使用期間には十分なコンセンサスがいないのが現状である。ガイドラインとして統一した治療方法を推奨することが難しい疾患であるといえよう。

本疾患は全身性多臓器性疾患であるが、呼吸器病変の合併頻度が圧倒的に高いために厚労省の指定難病としても歴史的に呼吸器疾患に分類されており、多くの患者が一般内科や呼吸器内科を受診して、呼吸器内科医が診療の中心となることが多い。仮に皮膚や骨・関節を主病変とする患者であっても、全身ステロイド治療や他臓器の管理を行うのは、やはり呼吸器内科医を中心とした内科医であるべきであろう。よって本症は、いわば「呼吸器内科医を中心とした内科医が主治医となって、他の専門家の意見を参考にしながら診療していくべき疾患である」といえる。しかしながら、呼吸器疾患全体からみると呼吸器内科医が本症の患者に遭遇する機会が少ないために、臨床の現場で適切な対応がなされていないことが多いようにみうけられる。

この「サルコイドーシス診療の手引き2016」は、そのような状況を鑑みて、本症の診療の主治医となるべき呼吸器内科医あるいは一般内科医を対象として作成した。もちろん疾患の状況や医療機関の状況によっては、その他の科の医師が中心となることもある。

本稿の前半は診療に必要な事項の概要を述べ、後半は実臨床に沿ったQ&A形式とした。作成にあたってはできるだけ多くの論文を参考にしたが、元来エビデンスレベルの高い治療研究報告が少ない疾病であり、かつ、本症は民族・人種によって臨床像が大きく異なることが知られているため、欧米の研究報告をそのままわが国の診療に適用することには抵抗があった。よって、その記述のほとんどすべてがわが国で豊富な診療経験を有する専門家たちの意見の集約である。日本のサルコイドーシスという、特異な独自性があり、多彩かつ多様であり、統一した治療方針の推奨が難しい疾患の診療の手引きを作成するためには、この方法が最良であると信じるものである。

本稿は、サルコイドーシスの診療に携わる医療者、とくに呼吸器内科医、一般内科医の実臨床に役立つ内容をめざして作成した。この診療の手引きによって、ひとりでも多くのサルコイドーシスの患者さんがよりよい診療がうけられるようになれば幸いである。

2016年12月

日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会  
サルコイドーシス診療の手引き2016作成委員長

山口哲生

# サルコイドーシス診療の手引き2016

## 作成委員会名簿

委員長	山口 哲生	新宿海上ビル診療所
副委員長	四十坊典晴	JR札幌病院 呼吸器内科
	山口 悦郎	愛知医科大学 呼吸器・アレルギー内科
幹事	乾 直輝	浜松医科大学 臨床薬理学講座
	今野 哲	北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野
	玉田 勉	東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野
	森 由弘	国家公務員共済組合連合会高松病院 呼吸器内科
呼吸器内科	井上 義一	国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター
	海老名 雅仁	東北医科薬科大学医学部 内科学第一（呼吸器内科）
	鈴木 榮一	新潟大学医歯学総合病院
	須田 隆文	浜松医科大学 内科学第二講座
	長井 苑子	公益財団法人京都健康管理研究会中央診療所
	宮崎 英士	大分大学医学部 総合内科・総合診療科
眼科	石原 麻美	横浜市立大学大学院医学研究科 視覚器病態学
	後藤 浩	東京医科大学臨床医学系 眼科学分野
神経内科	西山 和利	北里大学医学部 神経内科学
	横山 和正	順天堂大学 脳神経内科
皮膚科	伊崎 誠一	埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科
	岡本 祐之	関西医科大学 皮膚科学講座
循環器内科	草野 研吾	国立循環器病研究センター 心臓血管内科
	寺崎 文生	大阪医科大学医学教育センター・循環器内科
	森本 紳一郎	総合青山病院 循環器内科
	矢崎 善一	佐久総合病院佐久医療センター 循環器内科
執筆協力者	濱田 邦夫	市立千歳市民病院 内科
	小林 英夫	防衛医科大学校 呼吸器内科
顧問	本間 栄	東邦大学医学部内科学講座 呼吸器内科学分野（大森）
	杉山 幸比古	練馬光が丘病院 呼吸器内科
	西村 正治	北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野
	工藤 翔二	公益財団法人結核予防会